

製品名: OPG ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15357**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:100-1:300,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	55kDa

抗原情報

遺伝子名	TNFRSF11B
別名	TNFRSF11B; OCIF; OPG; Tumor necrosis factor receptor superfamily member 11B; Osteoclastogenesis inhibitory factor; Osteoprotegerin;TR11B
遺伝子 ID	4982.0
SwissProt ID	O00300
免疫原	抗血清はヒト TR11B 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59

背景

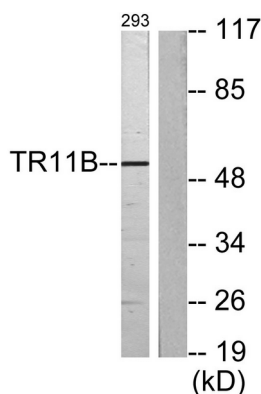
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、TNF 受容体スーパーファミリーのメンバーです。このタンパク質は骨芽細胞から分

泌されるデコイ受容体であり、骨吸収の負の調節因子として機能します。このタンパク質は、そのリガンドであるオステオプロテゲリンリガンドに特異的に結合します。これらのリガンドはどちらも破骨細胞発達の重要な細胞外調節因子です。マウスの同等のタンパク質の研究からも、このタンパク質とそのリガンドがリンパ節器官形成と血管石灰化に役割を果たすことが示唆されています。この遺伝子の選択的スプライス転写バリエーションが報告されていますが、その全長は決定されていません。[RefSeq 提供、2008年7月]、疾患：TNFRSF11Bの欠陥は、若年性パジェット病（JPD）[MIM:239000]の原因です。若年性皮質変形性骨増殖症、遺伝性高ホスファターゼ症、または慢性先天性特発性高ホスファターゼ症とも呼ばれます。JPDは、乳児期または幼少期に発症するまれな常染色体劣性骨疾患です。この疾患は、骨格全体の骨リモデリング速度が著しく加速することによる、急速にリモデリングする網状骨、骨減少症、脆弱性骨折、および変形を特徴とします。世界中で約40件のJPD症例が報告されています。破骨細胞を介した骨吸収を阻害する薬で治療しない限り、この疾患は致命的となる可能性があります。機能：RANKLのデコイ受容体として作用し、それによって破骨細胞形成におけるその機能を中和します。in vitroで破骨細胞の活性化を阻害し、破骨細胞のアポトーシスを促進します。骨の恒常性は、局所的なRANKL/OPG比に依存しているようです。動脈石灰化を防ぐ役割も果たしている可能性があります。TRAILのデコイ受容体として作用し、アポトーシスから保護する可能性があります。TRAIL結合は破骨細胞形成の阻害を阻害する。誘導：培地中のカルシウム濃度およびエストロゲンの上昇によってアップレギュレーションされる。グルココルチコイドによってダウンレギュレーションされる。PTM：N-グリコシル化されている。シアリン酸残基を含む。PTM：N末端はブロックされている。類似性：2つのドメインを含む。類似性：4つのTNFR-Cysリピートを含む。サブユニット：ホモ二量体。組織特異性：成人の肺、心臓、腎臓、肝臓、脾臓、胸腺、前立腺、卵巣、小腸、甲状腺、リンパ節、気管、副腎、精巣、骨髄で高発現する。脳、胎盤、骨格筋で非常に低レベルで検出される。胎児の腎臓、肝臓、肺で高発現する。、

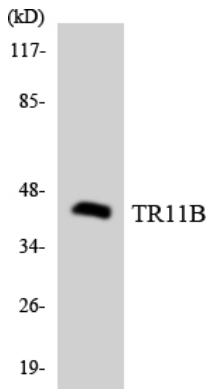
研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;

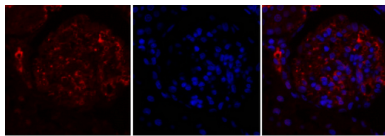
画像データ



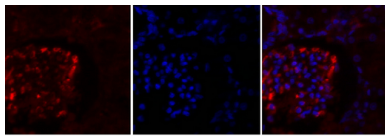
TR11B抗体を用いた293細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



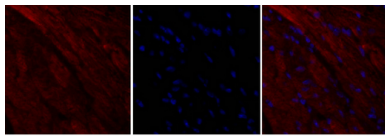
TR11B 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウエスタンブロット分析。



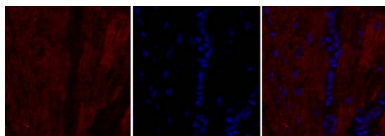
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, OPG ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



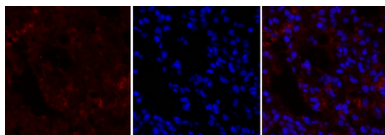
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, OPG ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



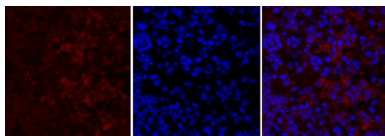
マウス心臓組織の免疫蛍光染色。1, OPG ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



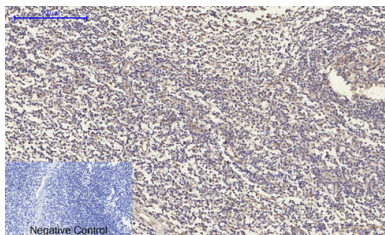
マウス心臓組織の免疫蛍光染色。1, OPG ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



マウス肺組織の免疫蛍光染色。1, OPG ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



マウス肺組織の免疫蛍光染色。1, OPG ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



パラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学染色。1. OPG ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晩)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。